

# 美容外科の役割は、自信を持って生きていくことへのお手伝い。

小住 和徳 (OZUMIクリニック 院長)



## 医師としての礎となった 聖マリア病院での5年間。

小倉南区、長行東にある「OZUMIクリニック」には、毎日様々な悩みや思いを抱えたクライアントが来院する。「鼻を高くしたい」「アザを消したい」「深いしわをなくしてきれいにしたい」…そのひとつひとつの声に耳を傾け、毎日才や治療を行っているのが院長の小住先生だ。形成外科、美容医療の現場で研鑽を続けて30余年。その実力と実績は福岡・北九州でも一目置かれる存在となっている。

多忙な日々を送る先生だが、現在の医療への思いや治療方針の基盤となったのは、開業前に勤務していた久留米の「聖マリア病院」での経験だという。

今や世界最大規模ともいわれた「聖マリア病院」の「新生児未熟児センター」は、小住先生が32歳で形成外科部長として赴任した当時から東洋一の規模を誇り、全国から先天異常や心臓奇形の赤ちゃんが運び込まれる現場。小住先生はそこで唇裂(俗にいう三つ口)、口蓋裂の症状を中心に、相当数の症例を経験。より専門的で高度な医療が行えるよう、

**プロフィール**  
Kazunori Ozumi  
医学博士。日本美容外科学会常任理事、日本形成外科学会専門医、日本美容医療協会適正認定医、日本臨床形成美容外科医会副会長、国際美容外科学会正会員等。「美容外科手術ブライズ」など著書も多数。

「唇裂・口蓋裂センター」の立ち上げも行った。

「あの病院に行ってなければ、今の僕はありませんね。大変だったけれど本当にすごく勉強させてもらった。人生で一番成長でき、充実していた時期でした」。

## 形成外科、美容外科の役割とは。



1Fが皮膚科、2Fが形成・美容外科。2Fには脱毛センターもあり、肌の健康と美容に関することはほぼ全てここで相談できる設備とスタッフを備えている。

「美容外科も基本は同じです。医学的には異常がなくても、顔や体つきなど外観上のもことで悩んでいる人の悩みを解消し、自信をもって人生を生きていただくためのお手伝いをするのが僕の役割」。

この病院で形成外科医師として得たのは知識や技術だけではなく、先天性の唇裂・口蓋裂の患者の多くは生後数カ月の子供や赤ちゃんや子どもたち。ある唇裂患者の手記に「こういうものがあつた。もう学校なんかいやだ！行つたついでにせめてだけでも。行くもんか！」先天性の奇形はいじめの対象になる場合もある。親が奇形の新生児に受けるショックも、現場で数多く目の当たりにしてきた。「形成外科の役割は、こうした先天性の奇形、

やけどや交通事故の傷あとなどに悩む患者の体を元通りにし、心の重荷を取り除くこと」に刻まれた。37歳で今のクリニックを開業し、23年経った今もこの思いは変わらない。

「医療業界は日々進歩するし、ゴールがない。僕の好きなミュージシャンの言葉に「ゴールなんてない。あるのは近づくための道だけだ」という言葉がありますが、まさにその通り。日々研鑽。これに尽きますね。今年還暦とは思えない、気力と体力に満ち溢れた笑顔。これからも業界の第一線を走り続ける。



美容医療の世界で日々進化していくレーザー。高額なため全てに対応するのは難しいが、それでもここは脂肪融解、肌再生、アザ、ニキビ跡治療など目的別のレーザーを9台保有。福岡でも最大規模だ。

形成外科・美容外科・皮膚科 (社)日本美容医療協会 適正認定医院

松股会  
**OZUMIクリニック**

TEL 093-452-1117 (代) ※予約制

<http://www.ozumi.jp/>

北九州市小倉南区長行東2-14-11

(モリール「徳力風山」駅から徒歩7分)

診/10:00~18:00(受付は9:30~18:00)

休/木曜・火曜午後、12月31日~1月4日 P/30台

- 形成外科(保険診療/口唇裂・ワキガ・傷跡など)
- 美容外科(目・鼻・輪郭形成・乳房・でべそ・ほくろなど)
- 皮膚科(一般診療)



(社)日本美容医療協会  
適正認定医院

